



著者プロフィール

上田日差し (うえだ・ひざし)

昭和36年9月23日静岡生れ。

昭和52年より作句を始め、上田五千石に師事、「畦」入会。

平成9年 上田五千石急逝により「畦」終刊。

平成10年 「ランブル」創刊、主宰。

【著書】 句集『日差集』(昭和62年、牧羊社)、『忘南』(平成11年、花神社)

句文集『子育ての十七音詩』(ふらんす堂)、『ちきゅうにやさしいことば』(明治書院)。

俳人協会幹事、日本文藝家協会会員。

〈句集『和音』より転載〉〈2010年9月23日時点〉

『和音』

(自選15句)

上田日差し

梅林といふ密々のはなのことゑ
立つことは枯れてゆくこと大はちす
七草の数をひもとくやうに解き
等分の水の折り目を作り滝
空蟬を洞のひとつに数へたり
深吉野や月光に鯉ひるがへり
三極の花の膝下といふべしや
飯の世にいるあらはこの桜貝
心にも正面ありぬ夜の桃
吊し雛ひとつひとつを灯にくるみ
宇治十帖ころに花を惜しむかな
芽牡丹や燠のごとくに父の言
芽吹山詩には未生のことばたち
初蝶来白を光の使徒として
水鳥を数へる間の夕明り